

2024年度 通期決算説明会



ロジスネクストのソリューションが世界の物流を支えています



2025年6月4日
三菱ロジスネクスト株式会社



2024年度 決算概要

三菱ロジスネクスト株式会社
取締役 常務執行役員 CFO 宇野 隆俊

1. 24年度決算のポイント

フォークリフト 市場環境

- 国内の需要は引き続き安定的・堅調に推移
- 米州は代理店在庫の調整局面が想定よりも長引き、卸売需要も弱含みに推移していたが、その局面も徐々に解消しつつある。欧州は緩やかながら回復基調、アジア・中国も比較的堅調であるが、中国製品の台頭により競争環境は激化
- 米国の関税政策が投資意欲を減退させ、堅調だった物流機器需要に影響を及ぼすことが危惧される

当社の状況

- リードタイムの正常化、価格適正化による収益性改善を進めながら、安心・安全、自動化・自律化、脱炭素といった物流機器市場のニーズの高まりに応えている
- 北米のエンジン認証遅延への対応として新型エンジン搭載車への置き換えを完了し引き続き挽回に努めているが、米国関税によるコストアップなども懸念される

業績概要

- 売上高は、価格適正化効果や為替の円安影響があったものの、米州を筆頭に海外事業での減収が響き、前年同期比で減収
- のれん等償却前営業利益は、米州での売上減に加え、新型エンジンへの切替に伴う生産部品・製品の廃却損失、評価損計上等一時費用発生により、前年同期比で減益
- 当期純利益は、土地売却益があったが、中国販売子会社の譲渡に伴う売却損や国内エンジン製造子会社における減損損失、偶発損失引当の計上があり、前年同期比で減益

売上高

6,655.9億円

YoY -5.2%

営業利益(※)

310.8億円

YoY -41.2%

当期純利益

86.6億円

YoY -68.5%

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

	FY23	FY24	前年同期比増減	
売上高	7,017.7	6,655.9	-361.8	-5.2%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	528.7 7.5%	310.8 4.7%	-217.9	-41.2%
のれん等償却	102.7	103.1	—	—
営業利益 (営業利益率)	426.0 6.1%	207.6 3.1%	-218.4	-51.3%
経常利益 (経常利益率)	374.7 5.3%	148.6 2.2%	-226.1	-60.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	275.2 3.9%	86.6 1.3%	-188.6	-68.5%
自己資本比率	22.0%	24.2%		
ROE	28.6%	7.2%		

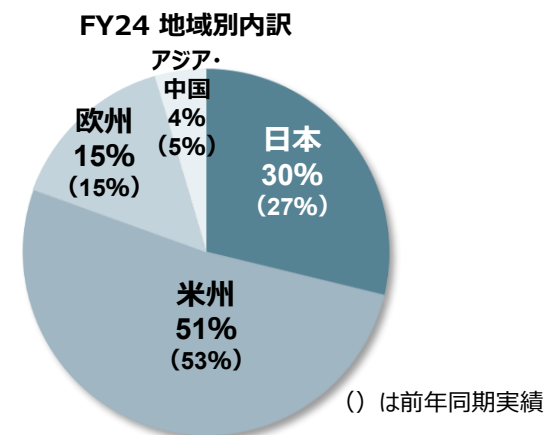
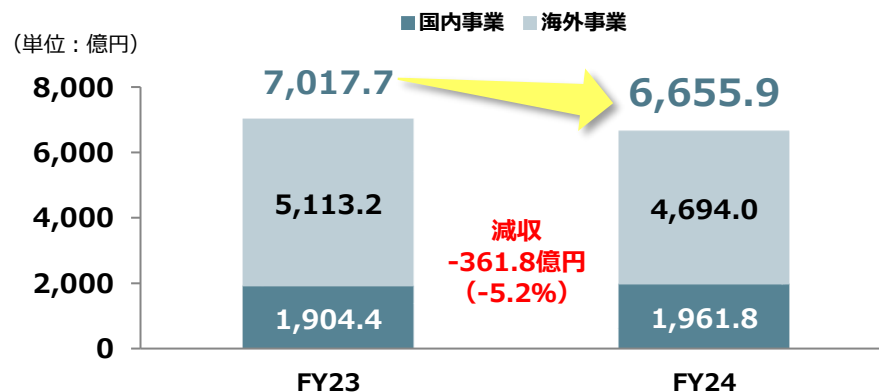
為替レート

USD	144.62円	152.54円
EUR	156.80円	163.72円
CNY	20.14円	21.10円

3. セグメント別業績

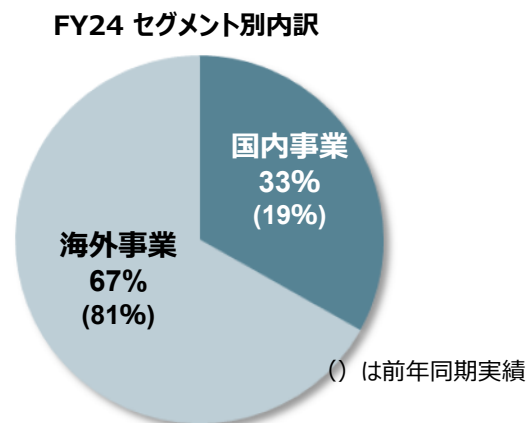
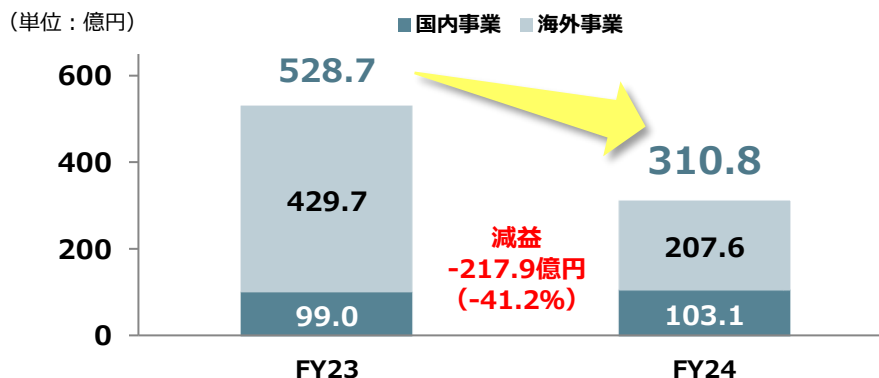
売上高

- 国内事業は、受注が堅調に推移する中、価格適正化の効果も寄与したことから前年同期比で増収
- 海外事業は、為替の円安影響があったものの、米州で310億円の減収。欧州で46億円、アジア・中国で62億円の減収



営業利益 (※)

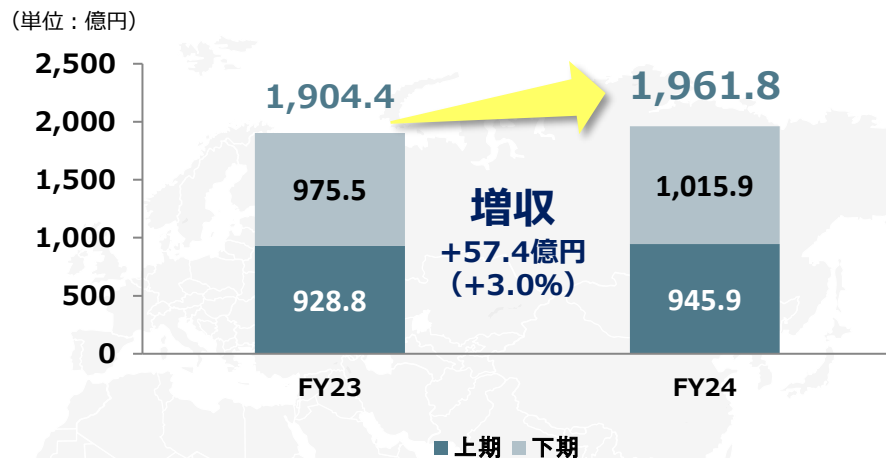
- 国内事業は、海外生産拠点からのライセンス収入の減少や研究開発費等の経費の増加もあったものの、輸出における円安影響に加え、堅調な国内販売における価格適正化の効果の寄与もあり前年同期比で増益
- 海外事業は、売上的大幅減収に加え、エンジン認証遅延に起因する一時費用の発生が響き前年同期比で減益



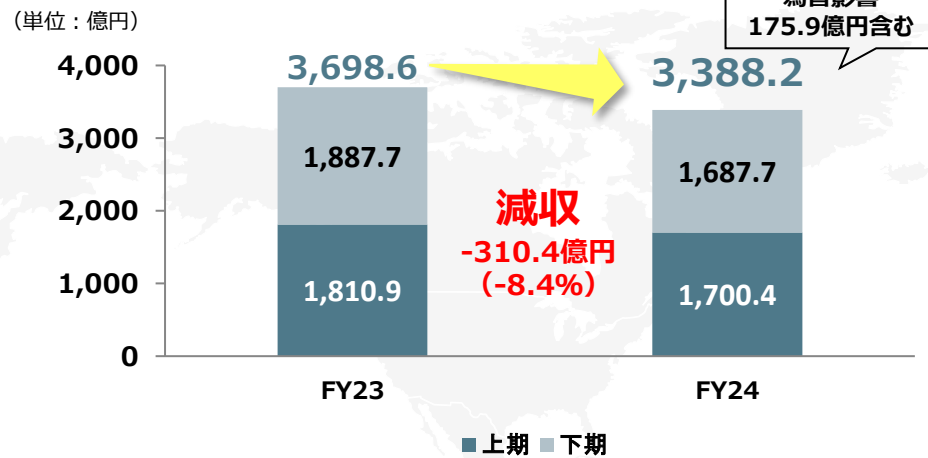
(※)のれん等償却前営業利益

4. 地域別売上高 (為替影響含む)

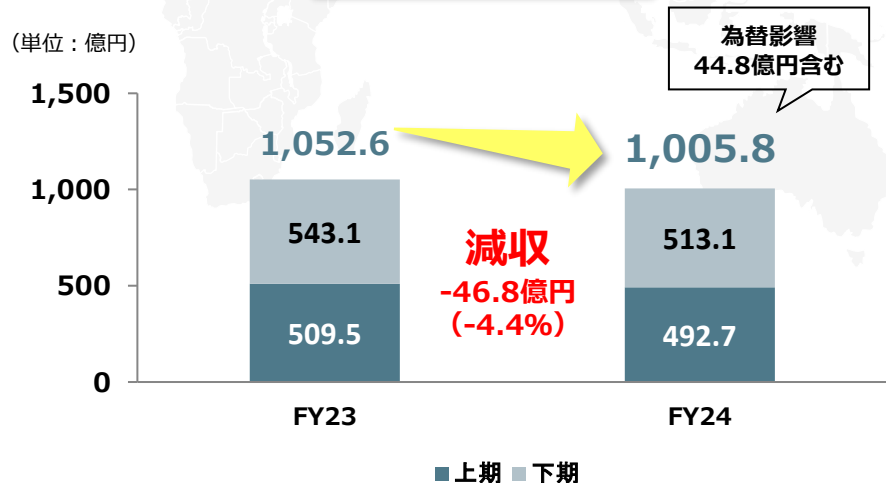
日本



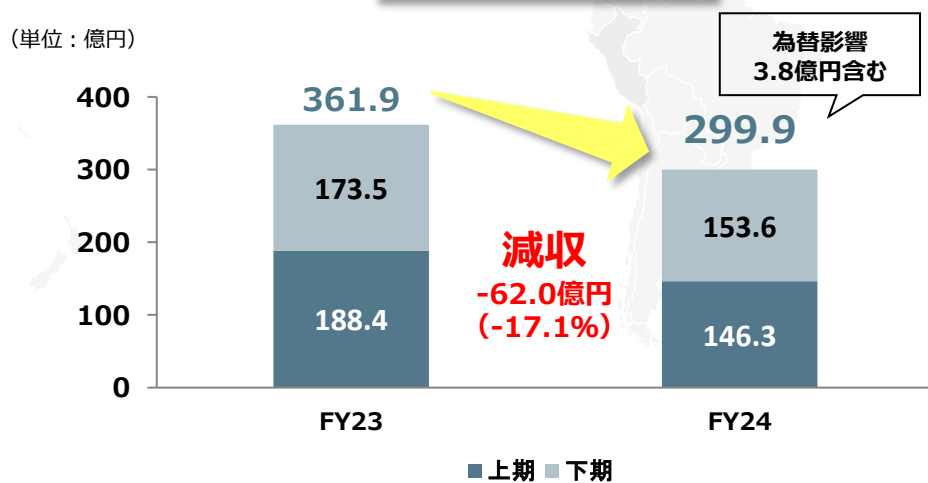
アメリカ



欧州

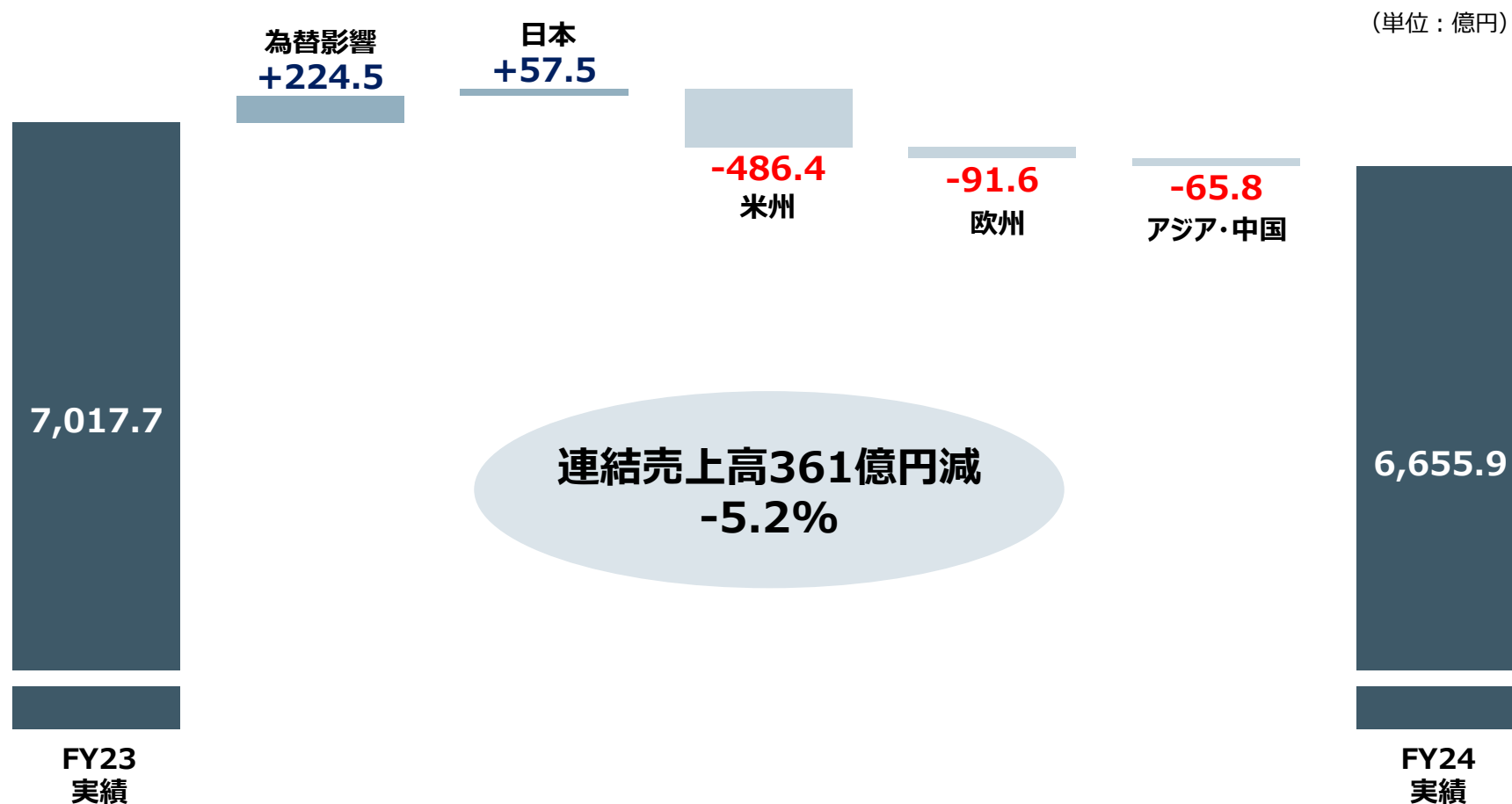


アジア・中国



5. 連結売上高増減要因（前年同期実績対比）

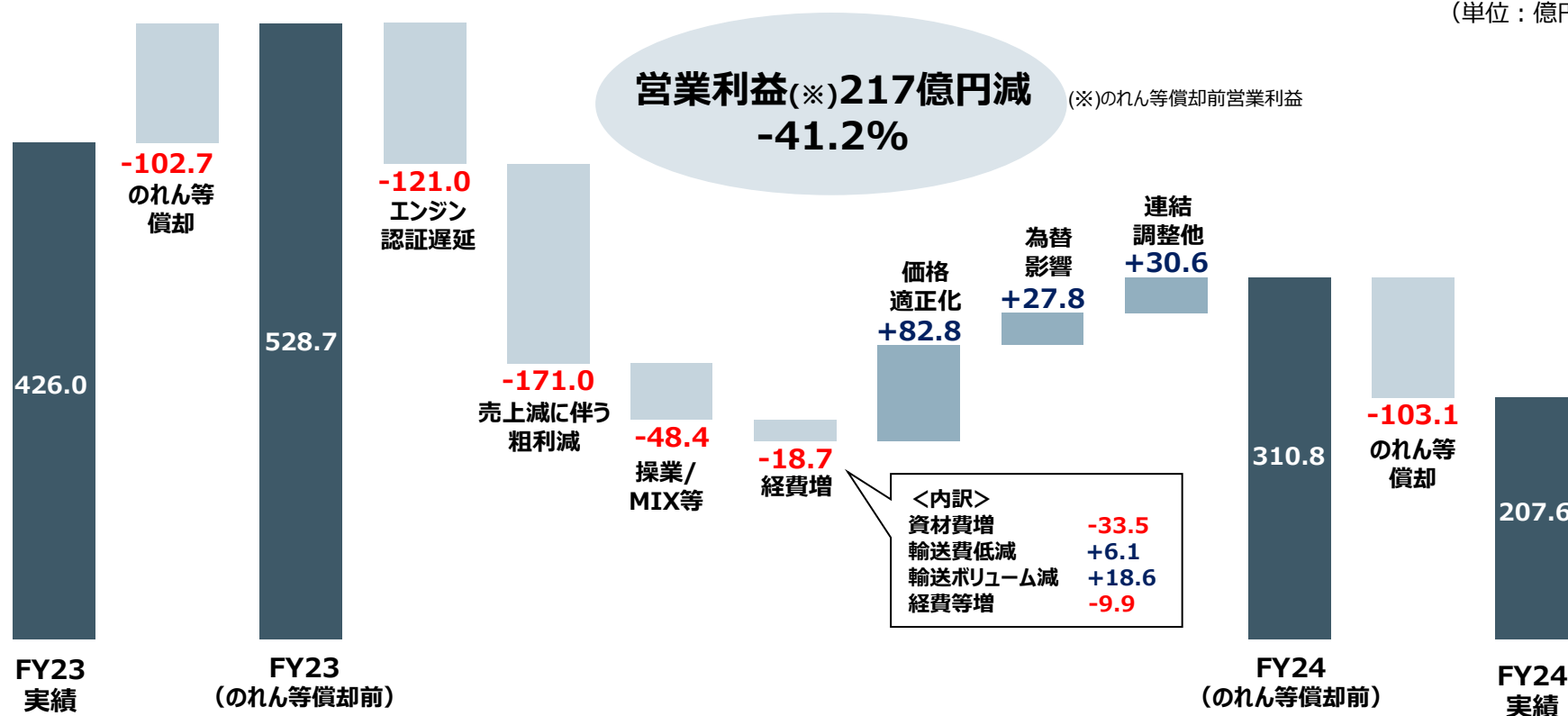
- 日本は、国内が堅調に推移し前年同期比で増収。海外は、円安による為替影響が寄与したものの、前期の米州を中心とした欠品解消による生産整流化、出荷促進からの反動に加え、北米での代理店在庫の調整の長期化や、欧州・アジアでの中国製品の台頭による競争環境激化もあり、全ての地域で減収



6. 連結営業利益(※)増減要因 (前年同期実績対比)

- 価格適正化の効果、為替の円安影響が寄与したものの、前期の米州を中心とした欠品解消による生産整流化、出荷促進からの反動に加え、北米での一時出荷停止や代理店の在庫調整の長期化、欧州・アジアの中国勢との競争激化に伴う売上減少、MIX悪化等が響き、前年同期比で減益
- 北米での新型エンジン換装による生産効率の悪化、エンジン認証遅延に起因する生産部品及び製品の廃却損失、評価損計上などの一時費用の発生も響いた

(単位：億円)

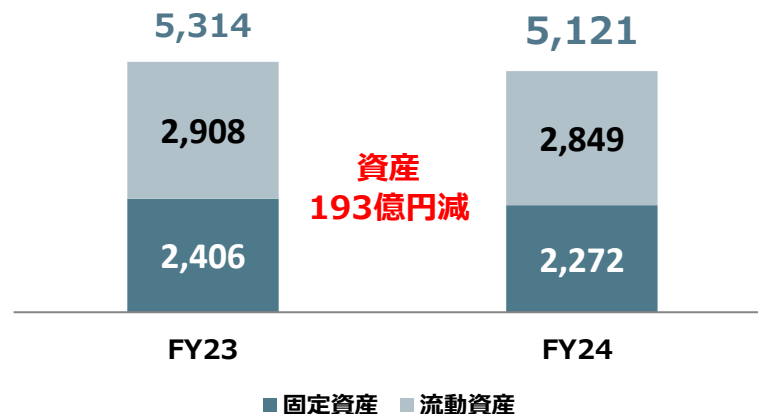


7. 連結貸借対照表

- 資産、負債は減少した一方、当期純利益の獲得による利益剰余金の増加があったことで、自己資本比率は24.2%と良化

(単位：億円)

資 産



項目	FY23	FY24	増減
流動資産	2,908	2,849	-59
（有形固定資産）	1,791	1,769	-22
（無形固定資産）	338	232	-105
（投資その他）	276	270	-6
固定資産計	2,406	2,272	-134
資産合計	5,314	5,121	-193

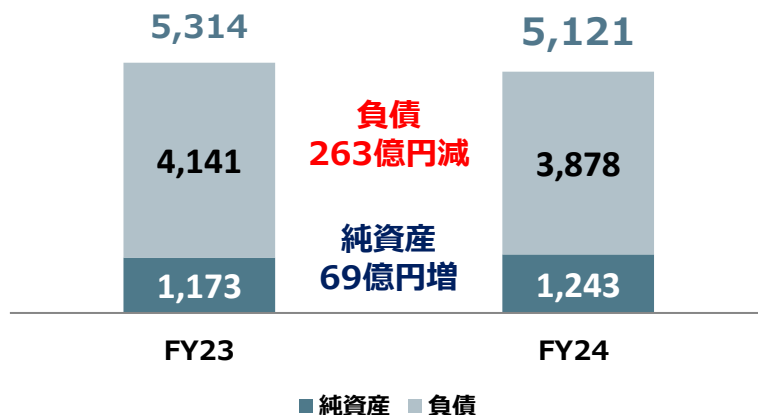
流動資産：減

為替の換算影響、棚卸資産・売上債権の減少等

固定資産：減

のれん等の償却による減少等

負債／純資産



項目	FY23	FY24	増減
流動負債	2,133	1,936	-197
固定負債	2,007	1,942	-65
負債合計	4,141	3,878	-263
純資産計	1,173	1,243	+69
負債・純資産合計	5,314	5,121	-193

負債：減

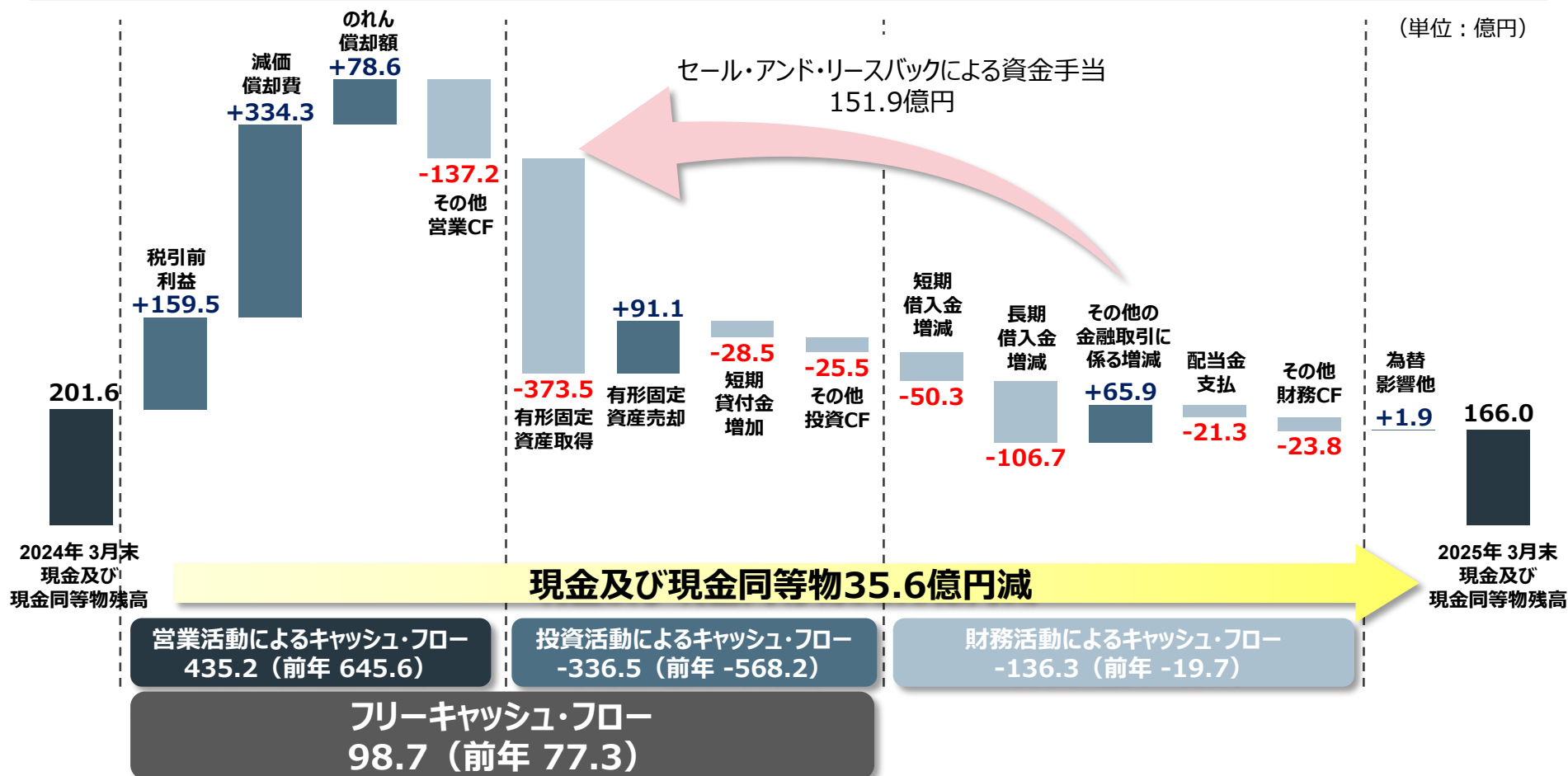
為替の換算影響、買掛債務・借入金の減少等

純資産：増

利益剰余金の増加

8. キャッシュ・フローの状況

- 営業C/Fは税引前利益の減益により435.2億円と前年同期より悪化
- 投資C/Fは有形固定資産取得額の減少、土地売却により-336.5億円と前年同期より支出が減少
- フリーC/Fは投資C/Fの減少により98.7億円と前年同期より好転



【参考資料】主な経営指標

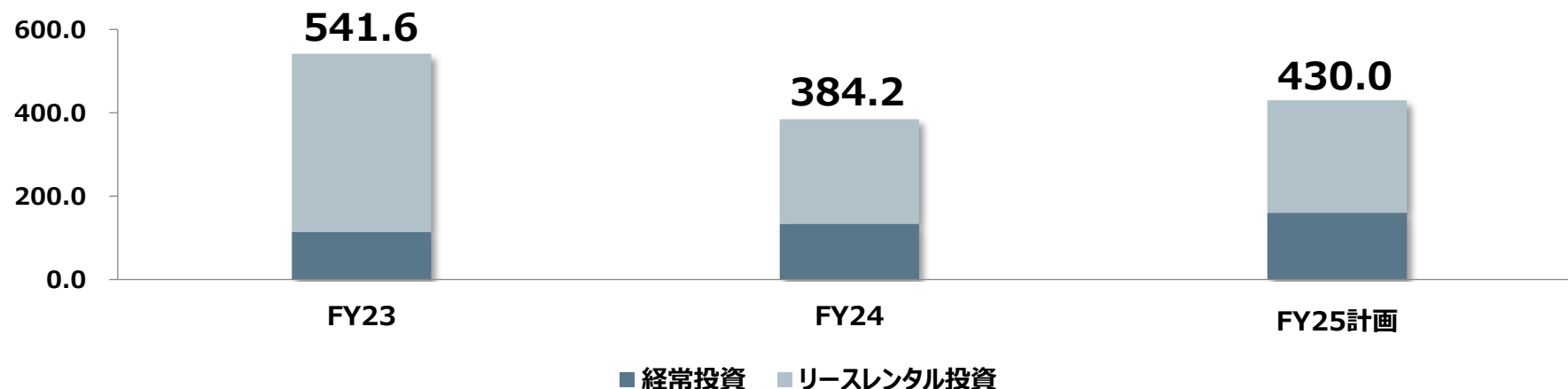
	指標	算式	FY23		FY24		コメント
				のれん等償却前*1		のれん等償却前*1	
総合	総資本利益率（ROA）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	5.5%		1.7%		業績悪化により当期純利益が減少したことで指標が悪化
	自己資本利益率（ROE）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	28.6%		7.2%		
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	6.1%	7.5%	3.1%	4.7%	米州での売上減、エンジン認証問題等が響き、指標が悪化
	売上高当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	3.9%	5.3%	1.3%	2.7%	当期純利益の減少により、指標が悪化
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.4回		1.3回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	7.3回		7.2回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	4.5回		4.1回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	22.0%		24.2%		
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	2.1倍		1.9倍		
株式関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	258.06円		81.26円		
	株価収益率（PER）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	7.3倍		24.2倍		株価： 2024年3月末：1,894円 2025年3月末：2,127円
	株価純資産倍率（PBR）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.7倍		1.7倍		

*1 参考値

【参考資料】設備投資／研究開発費

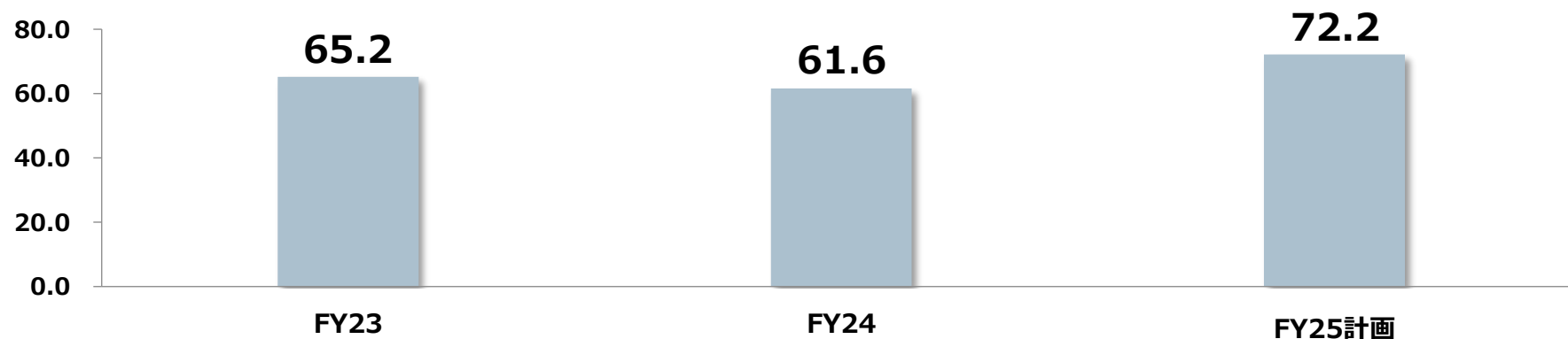
■ 設備投資額

(単位：億円)

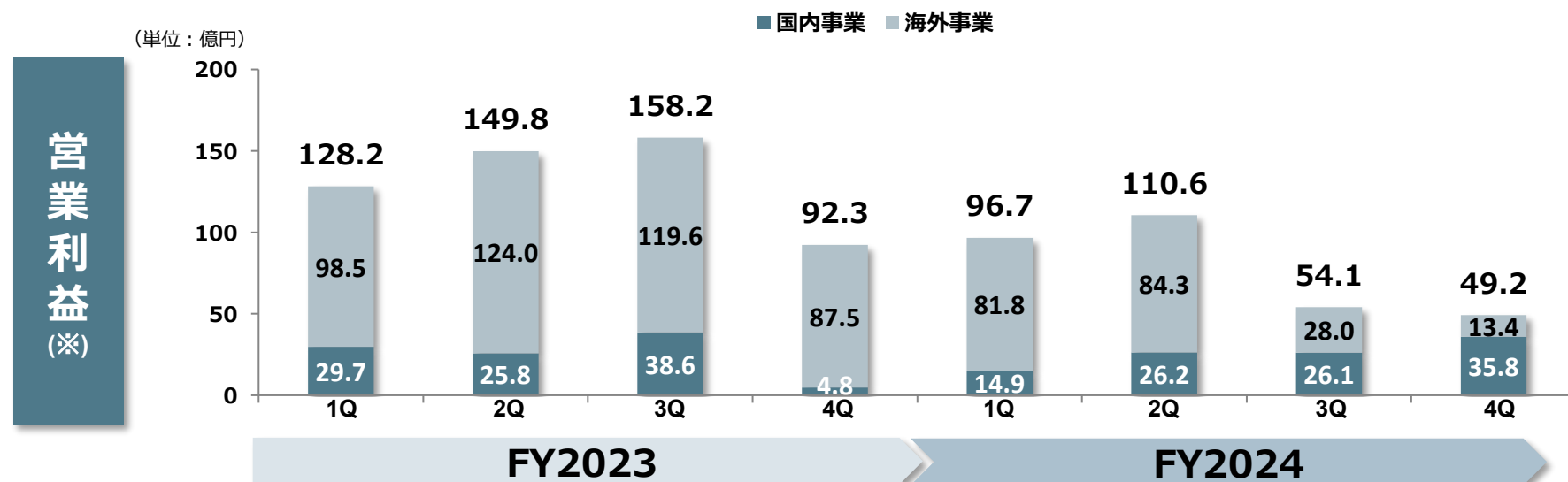
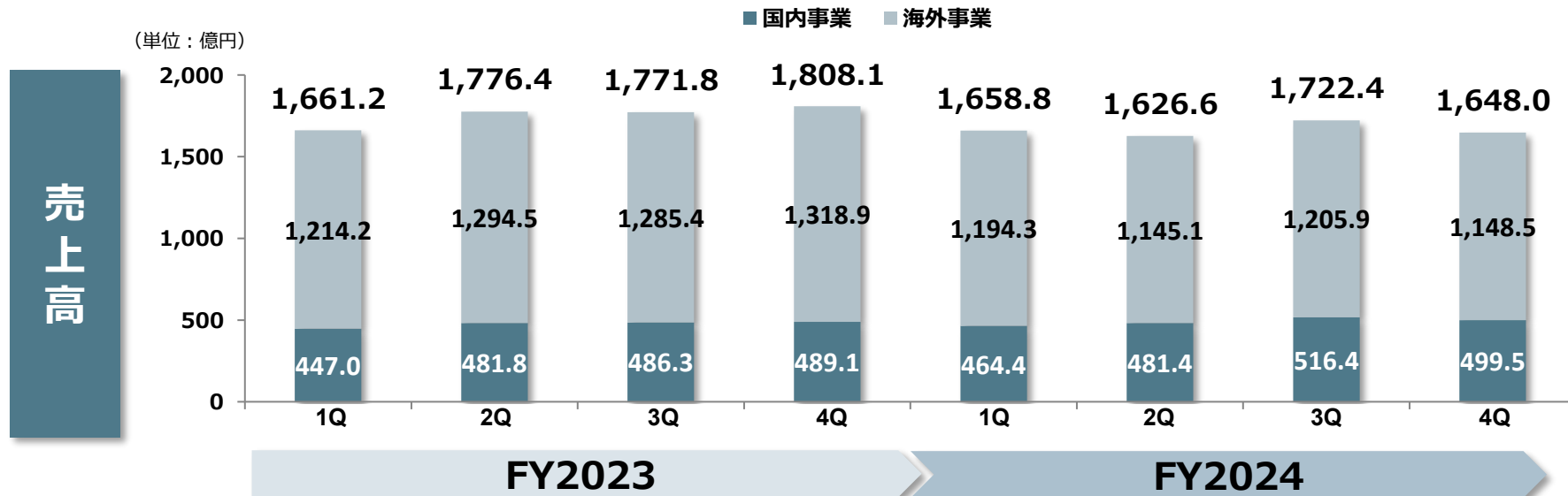


■ 研究開発費

(単位：億円)

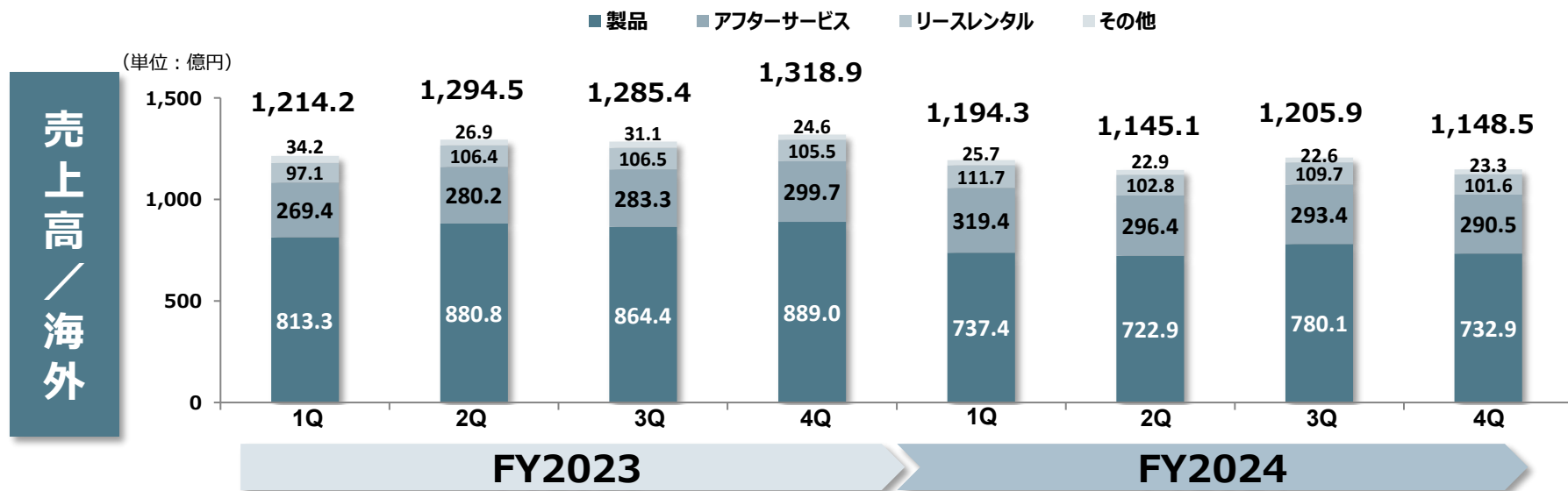
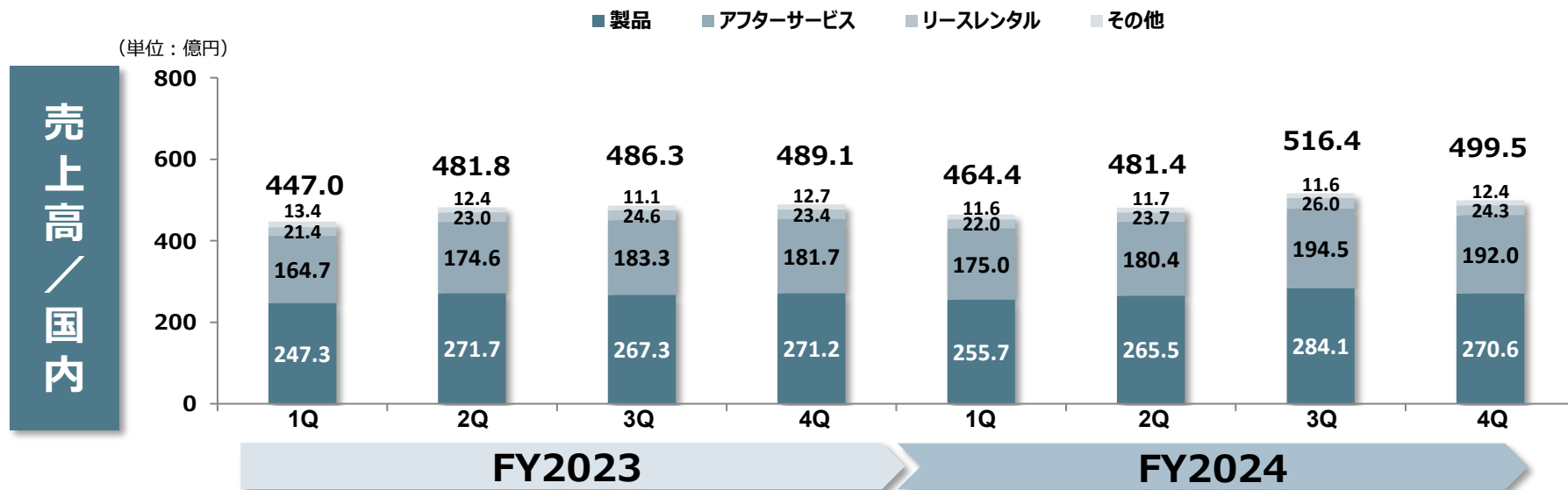


【参考資料】四半期推移 (セグメント別売上高・営業利益)



(※) のれん等償却前営業利益

【参考資料】四半期推移（カテゴリー別売上高）



【参考資料】株価の推移

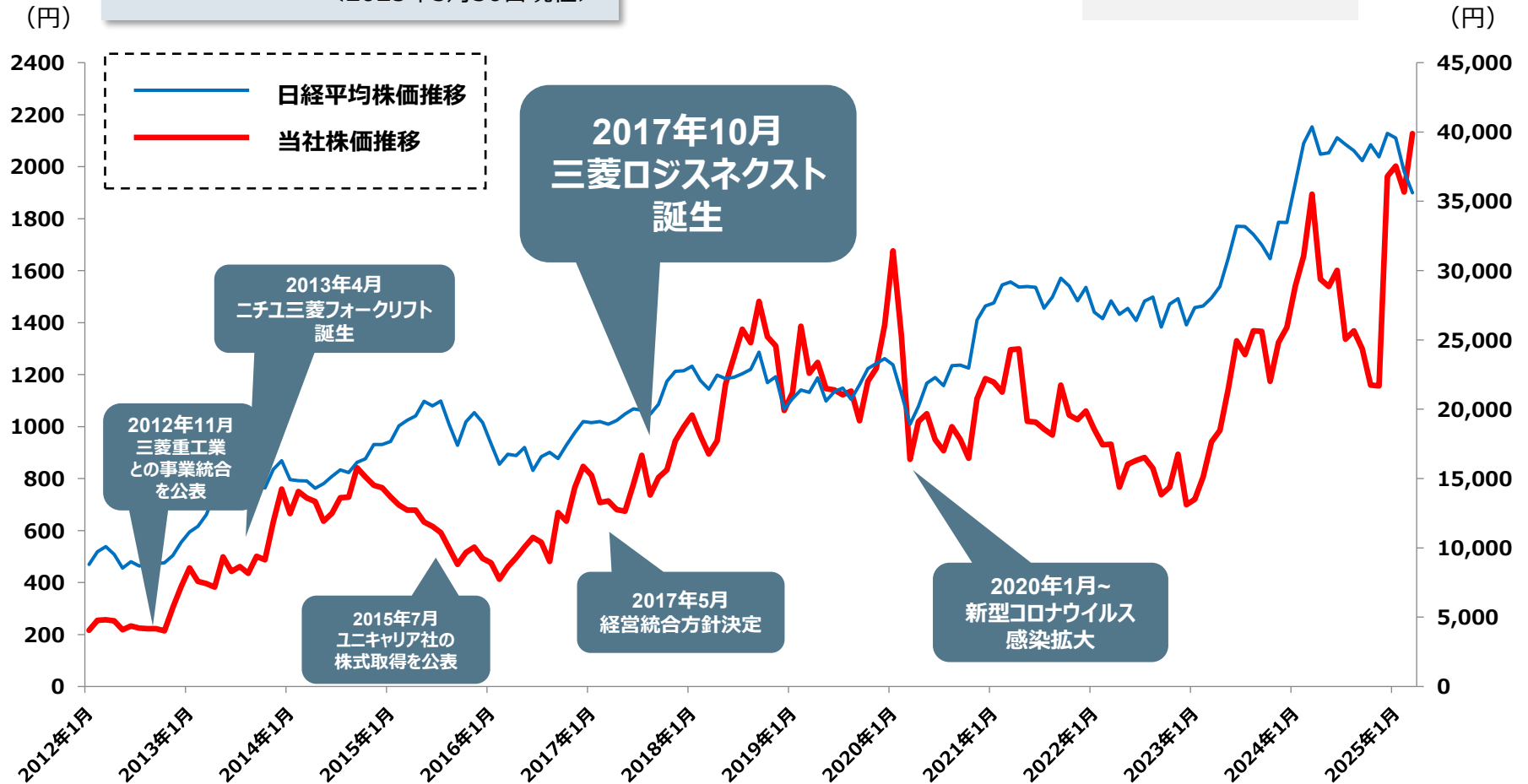
2025年

年初来高値：2,234円（3月19日）

年初来安値：1,702円（4月7日）

<2025年5月30日現在>

5月30日終値
2,198円



2025年度経営方針

三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 CEO 間野 裕一

1. 25年度業績予想のポイント

フォークリフト 市場環境

- 国内は25年度も堅調に推移する見込み
- 米州は代理店の在庫調整が一巡し、在庫発注が再開されつつあることから需要回復へ。また、欧州・中国・アジア市場においても緩やかな景気持ち直しを見込む
- 米国関税を初めとした政策次第ではグローバルでのコストアップが懸念され、また世界各国の経済へも大きな影響を及ぼす恐れがある

当社の状況

- 24年度に生じた北米でのエンジン認証遅延による影響は収束しつつあり、25年度での影響は限定的。また、代理店の在庫調整も一巡したことで受注回復
- 米国関税への対応に関しては、市場への影響も注視しながら、調達先の変更や価格転嫁等を含めた対策を検討
- 中期経営計画『Logisnext Transform 2026 (LT26)』の取り組みとして、欧州・アジア市場に侵攻している中国製フォークリフトへの対抗策を含む、バッテリー車ラインアップの強化、生産能力増強や、物流ソリューション事業の伸長に向けた施策を推進中

業績予想 概要

- 売上高は、前年比での円高進行が響くものの、北米での代理店在庫調整の一巡による需要回復が寄与し、前年同期比増収
- のれん等償却前営業利益は、円高による為替影響や、米国関税、インフレによる経費増等が見込まれるが、24年度の一時費用の戻りや、価格適正化、ボリューム増が寄与することで前年同期比増益
- 当期純利益は、前期の特別損益（土地の売却益、中国販売子会社の譲渡損・減損損失等）の影響が剥落する一方で、営業利益の増加が寄与することで、前年同期比増益
- 想定為替レートはドル145円、ユーロ155円

売上高

6,750億円

前年同期比 +1.4%

営業利益(※)

420億円

前年同期比 +35.1%

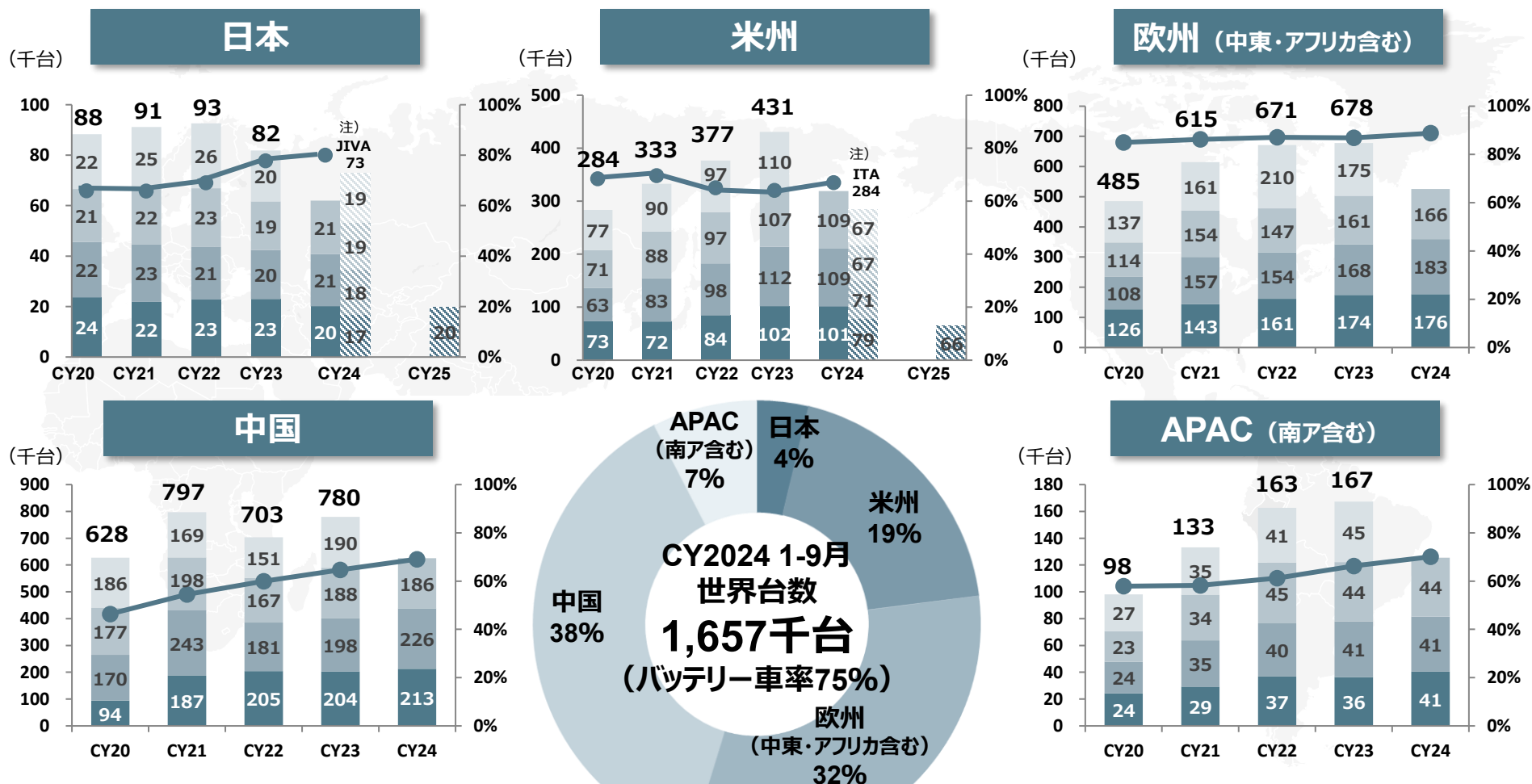
当期純利益

170億円

期初予想比+96.2%

2. 市場環境 / フォークリフト市場動向【出荷】

- 2025年1~3月において、日本(JIVA統計)は前年同期比で増加、米州(ITA統計)は景気減速及び、代理店の在庫調整の継続により出荷は減少傾向



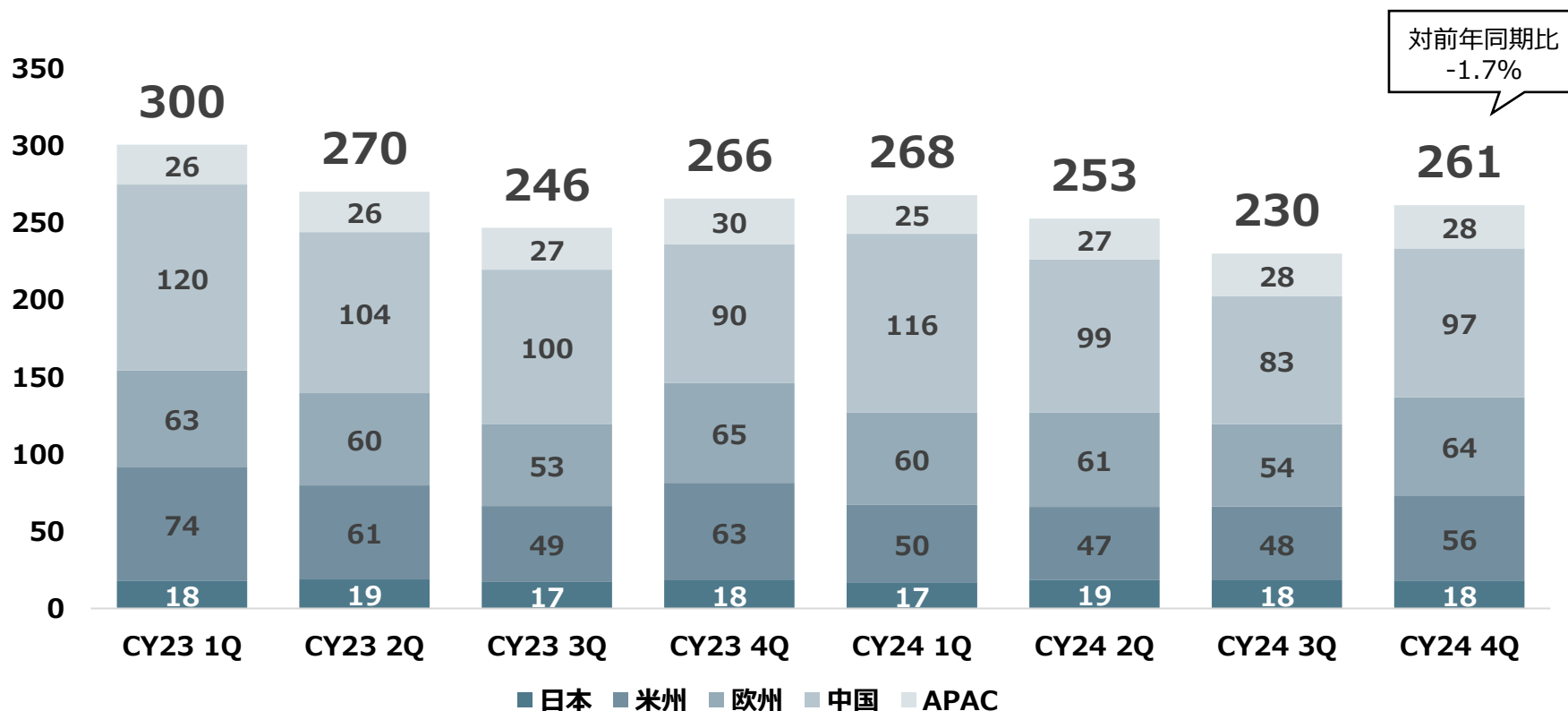
注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1~12月のCYで集計
 上記によるWITS統計開示遅延の為、日本はJIVA、米州はITAより集計。他地域は各国の統計データ未開示の為、CY2024 4Q以降は空白
 なお、JIVAはWITSとは基準が異なり、一部の車種が含まれていない。ITAは中国・韓国メーカーの米州内販売台数が含まれていない

3. 市場環境 / フォークリフト市場動向【受注】

- 受注は底打ちの兆しを見せており、前年同期比で-1.7%
- 米州は足元代理店の在庫調整が徐々に収束に向かっており、CY25以降の回復を見込む

(単位：千台)

受注台数 (ClassⅢ(※) 除く)



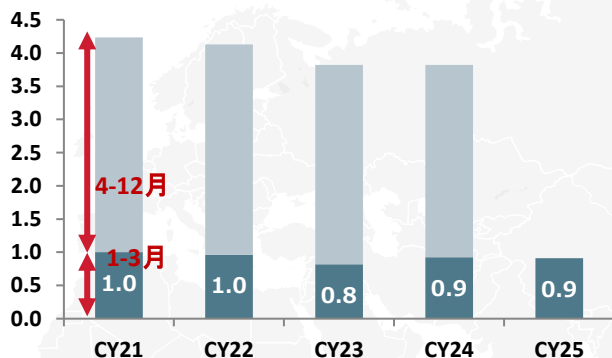
(※) ClassⅢ：自走式電動小型リフト

注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1～12月のCYで集計

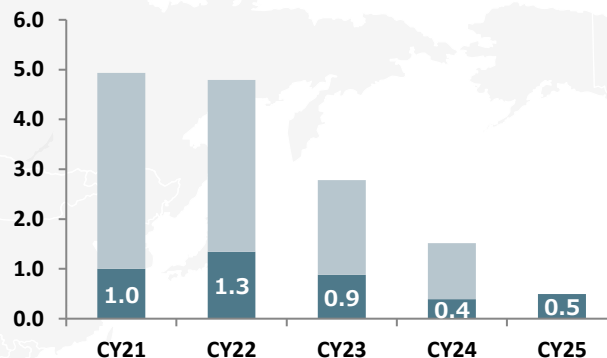
4. 当社受注状況（指数表示）

- 日本は比較的堅調に推移。米州は、足元代理店の在庫調整に目途が立ちつつあり、前年同期比で僅かに増加と底打ち感が出てきている

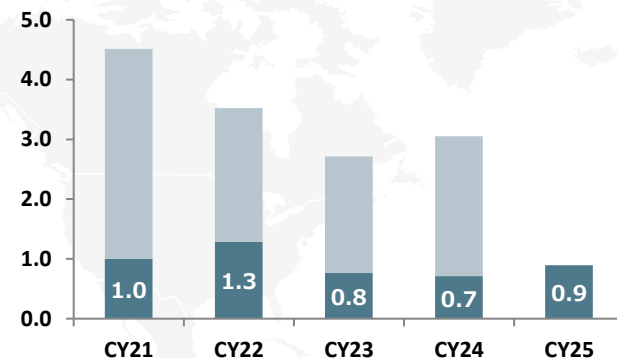
日本



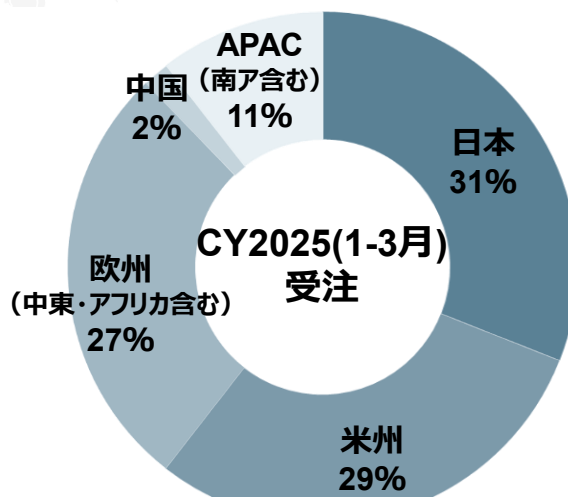
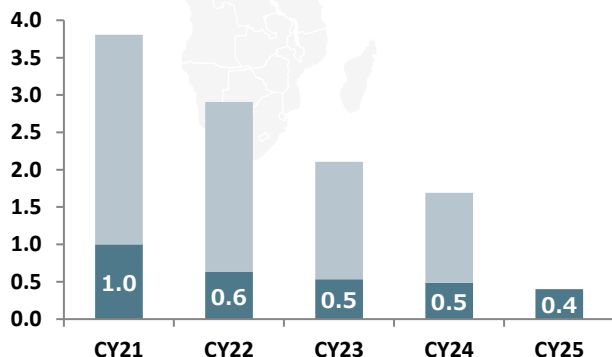
米州



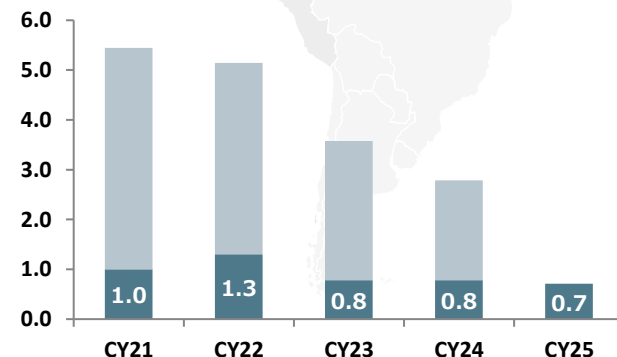
欧州（中東・アフリカ含む）



中国



APAC（南ア含む）



注）CY2021 1-3月=1として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記であっても見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある

5. 25年度フォークリフト市場見通しと当社の状況

- 日本市場は安定的に推移。米州市場は代理店の在庫調整の一巡により需要回復の見込み
- 当社は、北米での代理店の在庫調整及び、エンジン認証問題による影響が収束に向かうこと、中国製フォークリフト対抗策の実行により、前年比で受注は回復する見通し
- 米トランプ政権の相互関税政策が各国経済に及ぼす影響等の不確実性が非常に高く、動向を注視

日本	● 市場は堅調に推移する見込み ● 当社シェアは、競合他社のエンジン車出荷再開影響により、全需が増加することで、相対的に下がる見込み
米州	● 市場は、代理店の在庫調整が一巡し、在庫発注が再開されつつあることから、前年比で回復を見込む ● 当社シェアは、前年のシェア低下に大きく影響したエンジン認証問題の影響が収束に向かうことに加え、代理店の在庫調整に目途が立ちつつあることにより、前年比増加を見込む
欧州 (中東・アフリカ含む)	● 市場は、政情不安による先行き不透明感はあるものの、内需回復傾向を背景に、25年は緩やかな景気持ち直しが予想され、前年比回復を見込む ● 当社シェアは、中国勢との競争激化により、前年比微減を見込む
中国	● 市場は、コロナ禍後の特需の反動からの落ち込みから回復傾向にあり、前年比増加の見込み ● 当社シェアは、中国製フォークリフト対抗策としてローエンドモデルのバッテリー車を投入することで、前年比微増を見込む
アジア	● 市場は、新興市場等の成長や、緩やかな景気持ち直しにより、前年比微増の見込み ● 当社シェアは、中国勢による価格攻勢が懸念されるが、中国製フォークリフト対抗策の実行等により、前年比微増を見込む

6. 米国トランプ政権による相互関税の影響

- 相互関税の影響は、日々状況が変化していることに加えて、不確定要素が高く、一定条件下での織り込みとした
- 中国を除くサプライチェーンを構築することが喫緊の重要課題であり、個々の部品ごとに資材調達国の再選定を基本方針に対策を進める
- 関税による生産コスト悪化分は、生産用部品、輸入車両、補用部品問わず、サーチャージとして製品価格に転嫁することを前提として業績予想を策定
- 関税影響による景況感の悪化、需要動向についての予想は困難であるが、価格転嫁等の影響による需要下振れを鑑み、米州の販売台数については当初計画比10%減少すると想定

米州子会社の資材調達国

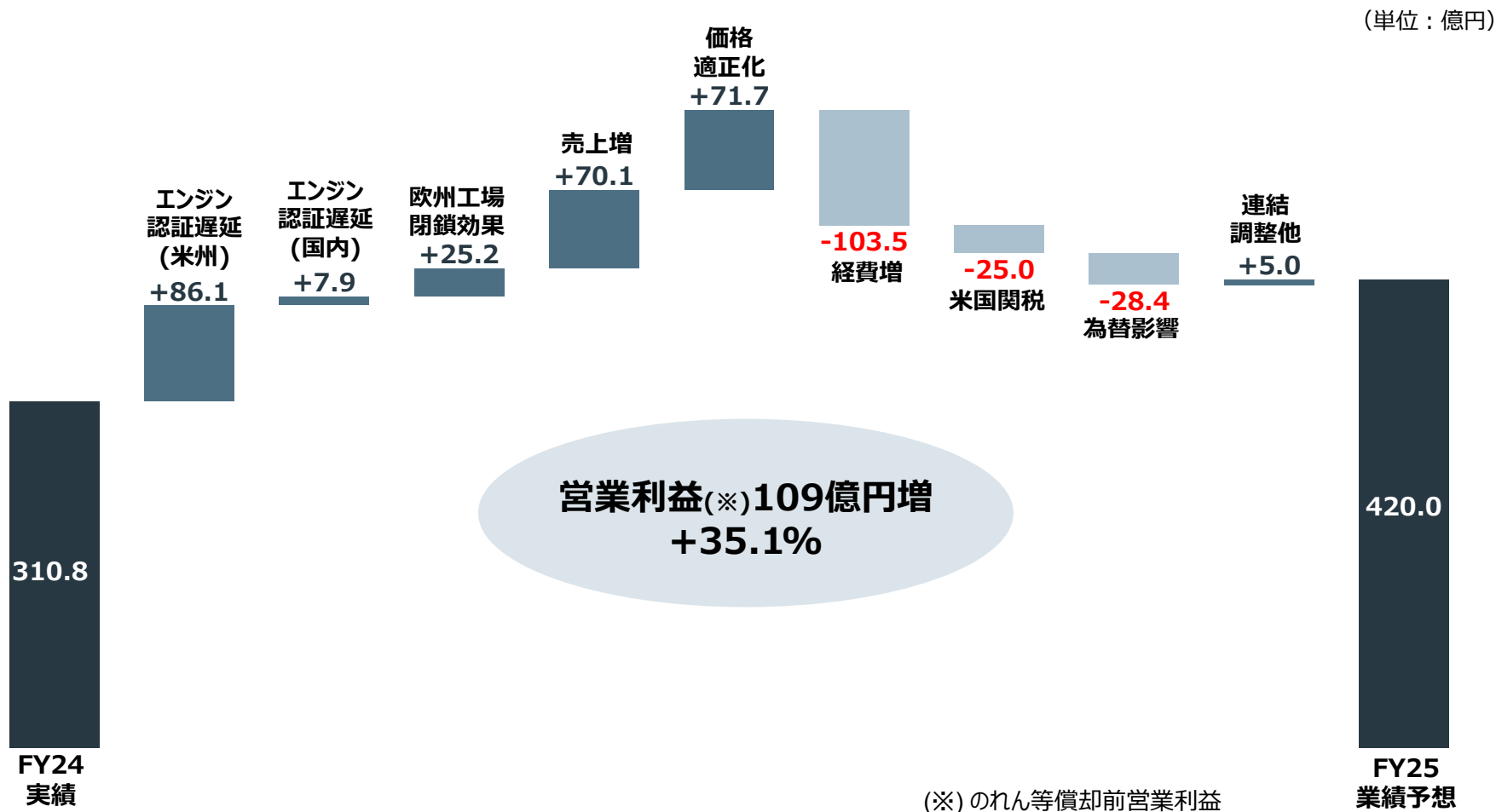
調達先	購入比率	主な調達品
現地調達（米国）	50%	油圧シリンダー、カウンターウェイト、鋼板材等
日本	19%	エンジン、トランスミッション、モーター等
中国	13%	カウンターウェイト、鋳物、ハーネス等
ドイツ	7%	鋼材、モーター等
その他	11%	

7. 25年度業績予想

(単位：億円)	FY24業績実績	FY25業績予想	前年同期比増減	
販売台数	92千台	95千台	+3千台	+3.3%
売上高	6,655.9	6,750	+94.1	+1.4%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	310.8 (4.7%)	420 (6.2%)	+109.2	+35.1%
のれん等償却	102.0	90	－	－
営業利益 (営業利益率)	207.6 (3.1%)	330 (4.9%)	+122.4	+58.9%
経常利益 (経常利益率)	148.6 (2.2%)	270 (4.0%)	+121.4	+81.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	86.6 (1.3%)	170 (2.5%)	+83.4	+96.2%
自己資本比率	24.2%	26.1%	－	－
ROE	7.2%	13.5%	－	－
1株あたり配当	24円	24円	－	－
為替レート				
USD	152.5円	145.0円		
EUR	163.7円	155.0円		

8. 25年度業績予想 営業利益(※)増減要因

- 米州でのサービス事業拡大のための人員増や日米でのシステム投資による経費増などが見込まれるが、24年度のエンジン認証遅延に係る一時費用の戻りや、価格適正化効果、ボリューム増が寄与することで前年同期比で増益の見通し



9. 『LT26』取り組み内容

中期経営計画(FY24~FY26)

～ 私たちがお客様の物流シーンを変える、社会を変える、私たちも変わる ～
“Logisnext **Transform** 2026” (呼称『LT26』)

基本戦略

産業車両領域での成長

- 「安心・安全」支援活動の加速
- 北米市場向け小型バッテリー車のフルモデルチェンジ
- 米州・欧州 新工場完成
- 中国製フォークリフト対抗策

物流ソリューション事業の飛躍

- 新技術「Synfox」搭載製品開発中
- “人機協調”をサポートするシステムの開発
- MLFI製無人搬送車ARTがデザイン・機能において高評価獲得

企業体質改善の継続と事業構造改革への挑戦

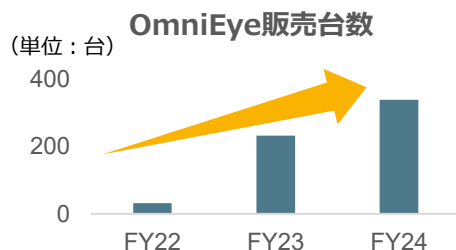
- 国内事業の再構築 直系販売会社再編

10. Topics 1 - 産業車両領域での成長

安心・安全

「安心・安全」支援活動の加速

- 多様化する安心・安全ニーズに対応するため、**顧客協働アジャイル開発を取り入れた、共創型支援活動**を推進中
- “顧客協働アジャイル開発”では、営業部門と技術部門のワンチームで、**お客様と一緒に開発を進め、全てを自社開発することにこだわらず、既製品を組み合わせて価値を創出**。お客様の課題に寄り添った解決策の提供を目指す



活動事例

- 危険行為アラートシステムを開発し、協働する株式会社バンテックで実証実験実施
- AI人検知システム (OmniEye®+回生ブレーキ制御仕様) が同社の標準仕様として採用

脱炭素

北米市場向け小型バッテリー車のフルモデルチェンジ

- 北米の小型フォークリフト市場においても、今後、エンジン車からバッテリー車への移行が進むと予想される中、**商品性向上とモデル統合のためにモデルチェンジ車を開発中**
- 欧州市場で高い評価を得ているEDiAシリーズをベースに、北米市場専用のクッションタイヤモデルとして、今年度中に市場投入予定



新型車



機種統合
&フルモデルチェンジ



- ✓ 欧州デザインの採用
- ✓ オペータフレンドリー
- ✓ コンパクトで高い旋回性能
- ✓ 安全機能の充実
- ✓ 最新の市場ニーズへの対応
 - ・リチウムイオン電池
 - ・テレマティクス など

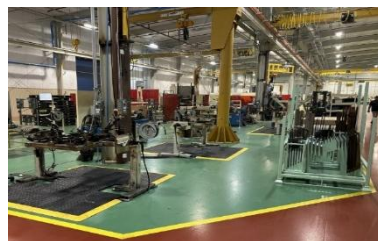
1 1. Topics 2 - 産業車両領域での成長

脱炭素

米州 バッテリー車新工場 欧州 新工場

- **脱炭素化・バッテリー化需要**への対応として、MLAヒューストン工場にバッテリー車の**生産能力増強と効率化**に向けた新工場を建設。米州市場での**バッテリー車拡販**を図る
- MLEフィンランド工場に新工場を建設。塗装能力を増強することで、**生産性向上**を図る。5月9日のオープニングセレモニーにはフィンランドの雇用大臣も出席

米州



欧州



脱炭素

中国製フォークリフト対抗策

- 欧州・APAC市場へ侵攻している中国製フォークリフト対抗策として、コスト競争力のある他社製品のOEM実施の他、**中国でローエンドモデルのバッテリー車を開発、5月より中国向け受注受付開始**
- 環境変化に伴う**バッテリー車の需要拡大**に対応するとともに、**中国勢を上回る性能と高い価格競争力を実現**することで、プレゼンスを高める



ローエンドモデルバッテリー車

- 中国子会社MLSH*1にて開発中
- 近年中国勢が勢力を拡大しているカウンターバランスタイプのバッテリー車を開発中

*1 MLSH : 三菱物捷仕叉車製造（上海）

1 2. Topics 3 - 物流ソリューション事業の飛躍

自動化・
自律化

新技術「Synfox*1」搭載 自動フォークリフト開発中

- Σ SynX*2の要素技術を取り込み実用化レベルまで落とし込んだ**当社の新しい自動化技術「SynfoX」**を搭載した自動フォークリフトの開発に取り組み中

「Synfox」搭載自動フォークリフトのポイント

- 倉庫内の作業環境を自身でマッピングして走行、床や棚にラフに置かれたパレットを検出した荷取り、また緊急時などにモード切り替えにより有人フォークリフトとしての運用が可能
- 国際標準を基にした安全性の向上



製品化に向け開発中の
自動フォークリフト
プロトタイプ

*1 SynfoX(シンフォックス) : Σ SynXで開発中の要素技術を取り込んだ革新的な自動化技術を指す名称で、誘導方式や製造コストなど製品化を前提に開発をした技術

*2 Σ SynX(シグマシンクス) : さまざまな機械システムを同調・協調させる三菱重工業の標準プラットフォームであり、機械システムの知能化により最適運用を実現するデジタル・テクノロジーを集約したもの

自動化・
自律化

“人機協調”をサポートする システムの開発

- 生産性向上のための統合制御システム「ミクストフリースソリューション」の機能向上版を欧州で販売開始（2024年10月）
- 引き続き機能追加、性能向上のための開発を推進中

ミクストフリースソリューションのポイント

- 有人フォークリフトと無人機器の作業管理を統合し、人と機械に最適な作業指示を行うことで、現場リソースの効率化を支援



ミクストフリースソリューションのイメージ

1 3. Topics 4 - 物流ソリューション事業の飛躍

自動化・
自律化

MLFI^{*1}製無人搬送車ART^{*2}が
デザイン・機能において高評価獲得

- 昨年のACT^{*3}に続き、ARTがドイツの国際的なデザイン賞である2025年「レッドドット・デザイン賞」を受賞
- 当社では過去10回「レッドドット・デザイン賞」を受賞。これからもデザイン・機能に優れた製品の開発を目指す

*1 MLFI: Mitsubishi Logisnext Europe Oy【フィンランド製造開発拠点】

*2 ART: Automated Reach Truck

*3 ACT: Automated Compact Truck

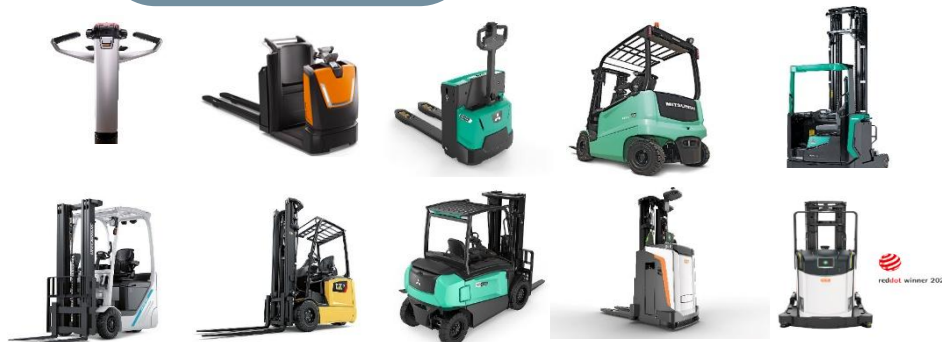


reddot winner 2025



ART

過去受賞製品



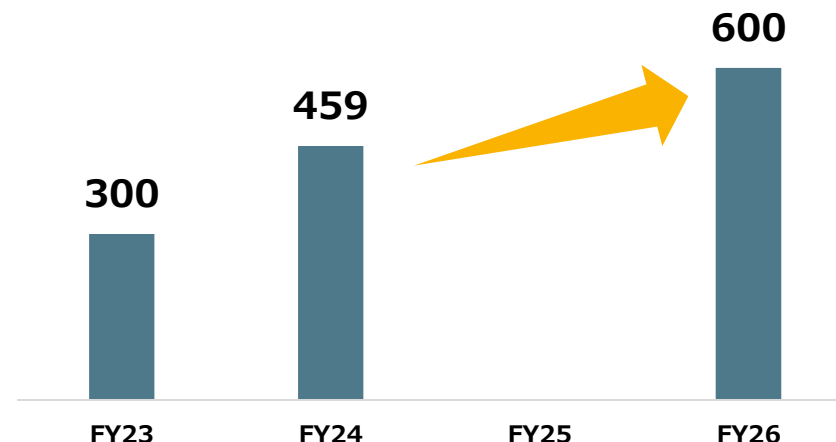
ソリューション事業 売上高推移

- 『LT26』で掲げたソリューション事業売上高600億円達成に向け、物流ソリューション事業をグローバルに統括する組織、ロジスネクストソリューションズ室(LogSol^{*1}室)を中心に各施策を推進中
- 米州でヘルスケア業界向けの大型倉庫ソリューションを受注するなど、2024年度売上高は459億円（前年比+153%増収）

*1 LogSol :ログソル

(単位：億円)

売上高推移



1 4 . Topic 5 - 企業体質改善の継続と事業構造改革への挑戦

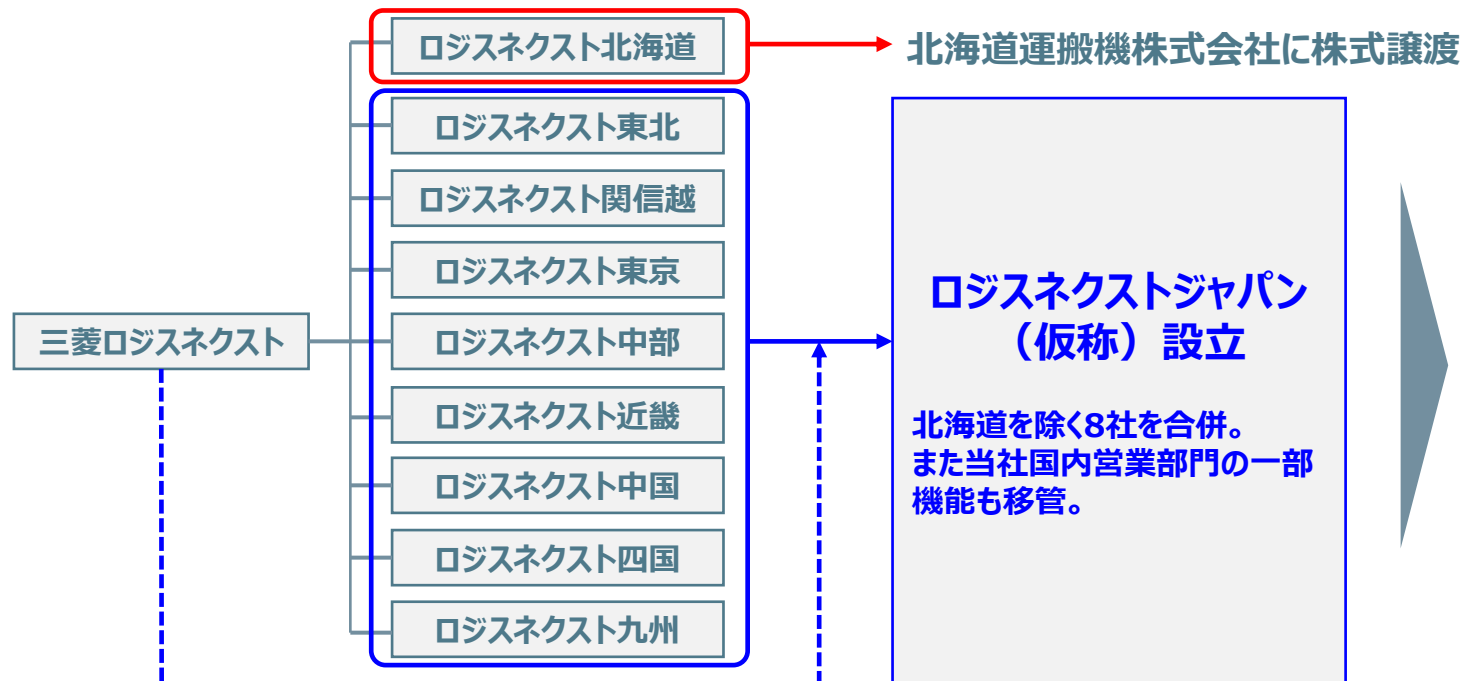
国内事業の再構築 直系販売会社再編

- 国内の物流機器・システム市場でのお客様へのサポート体制強化を目的に、当社国内営業部門の一部と子会社である**直系販売会社（8社）**を一体化し、10/1付で**新会社（仮称：ロジスネクストジャパン株式会社）**を設立することを決定
- 国内事業の再編により、効率性の高い事業運営を行い、変化の激しい外部環境に耐えうる体制を構築することで、収益力のアップを図る

現状国内直系販売

再編後（2025年10月～）

狙い



- 事業運営の効率化
- 迅速かつ的確な市場動向・顧客ニーズの把握
- 販売・サービス戦略の徹底
- 国内事業の収益力アップ

1 5. Topic 6 - EXPO2025 大阪・関西万博への協賛

社外交流やプレゼンス向上を促進し、地球課題解決への貢献を図る

- **テーマウィーク事業**に協賛し、「未来のコミュニティとモビリティ」、「健康とウェルビーイング」、「学びと遊び」、「地球の未来と生物多様性」の4テーマに係る企画会議に、若手社員が参加
- プログラム参加者と来場者をはじめ多くの人々が「対話」し、未来社会の実現に向けた新たな「共創」を生み出すことを目的とした場である、「**Team Expoパビリオン**」に出展
- グローバル規模で、多様な人材との交流を促進し、課題解決への参画を通して、若手社員の育成とエンゲージメント向上を図り、将来の**サステナビリティ経営の一層の高度化**を目指す



若手社員のプロジェクト参画



社外との人材交流・ビジネス交流



企業プレゼンスの向上



注意事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 経営戦略室 荻屋・五十嵐

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-4419 FAX : 075-955-8993

URL : www.logisnext.com

Logisnext

三菱ロジスネクスト